鹿児島女子短期大学紀要
第60号（2023）35～40頁

『貸出禁止の本をすくえ！』にみるアメリカで問題となる図書

Ban This Book and the Most Challenged Books Lists by ALA

川戸　理恵子
Rieko Kawato

鹿児島女子短期大学

子どもはどのような内容の本を読むべきであろうか．この問いと向き合った時，子ども自身が興味をもつ本と，大人が子どもに読んで欲しい本との間にはギャップが生じることがあると気づく．本稿では，アラン・グラッツの小説である *Ban this book*（邦訳『貸出禁止の本をすくえ！』）で扱われた図書をリスト化した．そして，本書で‘禁書’とされた本を取りあげ，アメリカ図書館協会による問題となった図書のリストと照らし合わせることでアメリカではどのような理由で問題図書とされているかを検討し，アメリカの学校図書館における検閲（censorship）やそれに等しい行為である異議申し立て（challenge）の傾向をまとめた．

Keywords：banned book, challenged book, censorship, challenge
キーワード：禁書，問題図書，検閲，異議申し立て

１．本研究で扱う題材について

2017年に出版された *Ban this book* は，アメリカのヤングアダルト向け作家であるアラン・グラッツ（Alan Gratz）が書いた小学校の図書室を舞台にした小説である．主人公エイミー・アンは，９歳の引っ込み思案な女の子であり，日々抱える不満を言葉に出すことができないでいる．自分の家に居場所がないと感じており，放課後は図書室に残ってゆっくりと読書をして過ごすことを楽しんでいる．ところがある日，図書室に行ってみるとお気に入りの一冊がクレームにより書架から無くなり利用できなくなっていることに気づくところから物語が始まる．エイミーとその仲間たちが，利用できなくなった図書室の図書を子どもたちが読めるように「ロッカー図書館」を運営しながら奮闘する姿が描かれていく．本書は2019年に，ないとうふみこ訳『貸出禁止の本をすくえ！』としてほるぷ出版から邦訳が出版されている．

２．異議申し立ての舞台となる学校図書館

Ban this book の舞台は小学校にある図書室，すなわち学校図書館である．ある保護者による異議申し立てをきっかけに教育委員会の指示で利用できない図書が増えていく．実際に学校図書館はアメリカにおいて多くの異議申し立てが起こる施設となっている．アメリカで発生した図書をめぐる異議申し立て行為は，アメリカ図書館協会（ALA）の知的自由部（Office for Intellectual Freedom，以下 OIF）に報告される．報告形式は，作品の書誌情報，作品の形態，異議申し立て理由，申し立て者，申し立てられた施設などである．このようにして OIF が統計としてまとめた OIF Censorship Database 1990–2000をもとにその傾向を確認したい．

図２－１は異議申し立てを行う当事者について示したものである．これによると親による申し立ては4,000件近く報告され，その割合は全体の60％を占めている．したがって，物語と同様に親による異議申し立ては非常に多いと言える．その他，利用者，管理者，委員会，教師と続くが，申し立て当事者のほぼすべてが大人によって構成されるグループである．物語ではやがて子どもたちが異議申し立てを行う現実とは真逆の展開となるが，皮肉のようで面白い．

図２－２は異議申し立てが発生した場所について示したものである．図２－１に見られるような理由から特に多く発生する場所は，「学校」（37％），「学校図書館」（35％），「公共図書館」（24％）である．中でも，学校と学校図書館で大半を占めており，その割合は全体の約70％である．したがって，物語の舞台が学校および学校図書館であることは実状を反映していると言うことができる．

アメリカ図書館協会のホームページでは，上述の異議申し立てをする当事者と場所について1990年から1999年までと2000年から2009年までに分けて示しているが，1990年から2000年までのデータと大きく違いはないと言える[1)]．

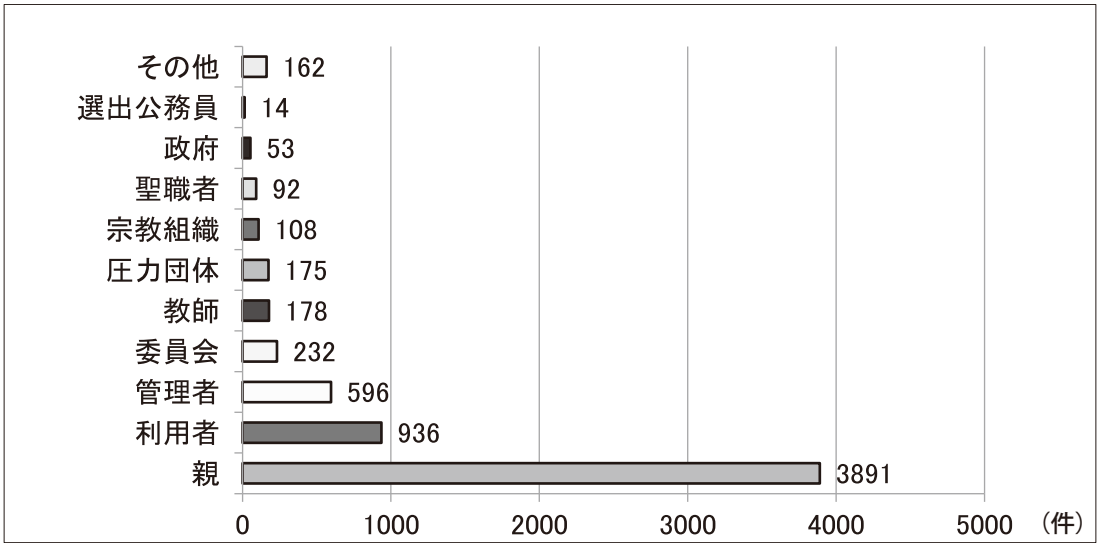

図２－１ 異議申し立てをする当事者[2)]

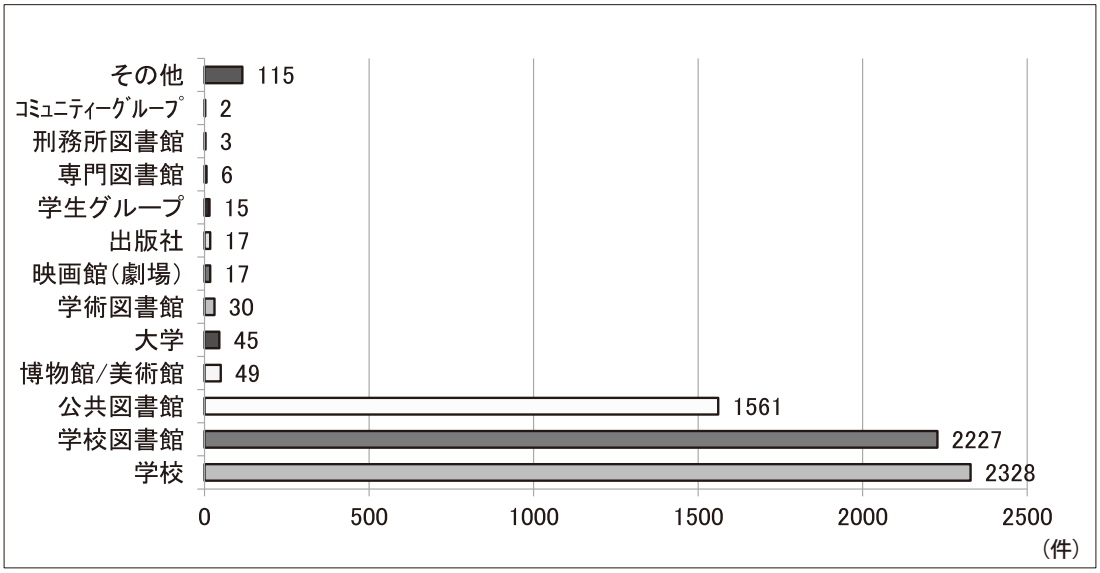

図２－２　異議申し立てが発生する場所[3)]

３．作品内で利用禁止となった図書

アラン・グラッツによると *Ban this book* で登場させた利用禁止となる図書は実存しており，過去30年の間にアメリカの図書館で実際に異議申し立てや禁書とされたものだと言う[4)]．作中に登場する図書のリストは本稿の文末に掲載した．そのなかで，エイミーの通う小学校の図書室では多くの図書が利用できなくなってしまうが，最初に対象となった図書は11冊（シリーズが含まれるため，以後11件とする）である．

３－１　最初の対象図書

最初に利用禁止となった11件について，その書名と本書におけるエピソードは以下の通りである[5)]．なお，邦訳刊行情報は『貸出禁止の本をすくえ！』（p.332－335）のリストを参考とし，出版年と複数の出版社から刊行されているものは2022年11月現在の情報をもとに追記した．

（１）*Are You There God? It's Me, Margaret*　by Judy Blume

エイミー自身が年齢的に読んでよいか躊躇う様子も描かれる．そして，本書のクライマックスで鍵を握る一冊でもある．

〈邦訳〉長田敏子訳『神さま，わたしマーガレットです』（偕成社，1982）

（2）*Scary Stories to Tell in the Dark*　by Alvin Schwartz
図書館でみかけつつも怖そうなため借りたことがなかったが，利用できなくなったことをきかっけにエイミー自ら本屋で購入して読む．タイトル通りに暗やみで読んだため，怖い思いをする．
〈邦訳はなし〉

（3）*Matilda*　by Roald Dahl
エイミーがすでに読んだことがあったうちの一冊．「イケてる」と評価している．
〈邦訳〉宮下嶺夫訳『マチルダは小さな大天才』（評論社，2005）

（4）*Harriet the Spy*　by Louise Fitzhugh
エイミーがすでに読んだことがあったうちの一冊．「イケてる」と評価．ロッカー図書館でスパイに興味があると思われる男の子に借りられる．
〈邦訳〉鴻巣友季子訳『スパイになりたいハリエットのいじめ解決法』（講談社，1995）

（5）*Wait Till Helen Comes*　by Mary Downing Hahn
前述（2）同様に怖そうで借りていなかったが，友人ダニーから借りて読んで以降，ことある毎に「ヘレンが来るよ」と冗談で口にするようになる．
〈邦訳はなし〉

（6）*It's Perfectly Normal*　by Robie H. Harris
エイミーが聞いたことなかった一冊で，物語ではなく性教育の内容と知る．本屋で手に取るも恥ずかしくなり，すぐに棚に戻して逃げ去ってしまう．
〈邦訳はなし〉

（7）*From the Mixed-up Files of Mrs. Basil E. Frankweiler*　by E. L. Konigsburg
エイミーの愛読書で最初に図書室から無くなっていることに気づいた一冊．利用できなくなった本を読めるように奮闘するきっかけとなる．
〈邦訳〉松永ふみ子訳『クローディアの秘密』（岩波書店，1969）

（8）*All the Junie B. Jones books*　by Barbara Park
エイミーから *The Egypt Game* を借りたジャナが持っていた分をロッカー図書館に提供した．
〈邦訳はなし〉

（9）*All the Captain Underpants books*　by Dav Pilkey
エイミーは馬鹿げた内容だと思い最初は読まなかった．図書室に異議申し立てをしたスペンサーとの関係もあるなかで，作家であるデイブ・ピルキー自身も登場人物となる．
〈邦訳〉木坂涼訳「スーパーヒーロー・パンツマン」シリーズ（徳間書店，2003–2004）

（10）*The Egypt Game*　by Zilpha Keatley Snyder
エイミー自ら本屋で購入した．エイミーら３人で図書を集めて読んでいることを知ったジャナが手紙で貸してくれるよう求めた．
〈邦訳はなし〉

（11）*All the Goosebumps books*　by R. L. Stine
ダニーの友人パーカーによってロッカー図書館に全冊寄贈される．
〈邦訳〉豊岡まみ訳「グースパンプス」シリーズ（ソニー・マガジンズ，1995）
津森優子訳「グースパンプス」シリーズ（岩崎書店，2006）

３－２　OIF のリストと作中登場図書の比較

OIF が公開している最も頻繁に異議申し立てがされた図書のリストと，前述した作中で最初に利用禁止となった図書11件を比較したい．11件のうち OIF により上位にリストアップされたことが確認できるのは以下の５件であり[6) 7)]，通し番号は「３－１　最初の対象図書」と統一した．

（1）*Are You There God? It's Me, Margaret*
著者はジュディ・ブルーム（Judy Blume）で1970年に刊行された．1990年から2000年までの10年間で62位となっている．ジュディ・ブルームは子どもたちに人気の作家でありながら，その作品は異議申し立てがされる常連と

なっている．

〈理由〉性的な内容，宗教的な観点　等

（２）*Scary Stories to Tell in the Dark*

著者はアルヴィン・シュワルツ（Alvin Schwartz）で1981年に刊行され，続編も刊行されている．1990年から2000年までの10年間で１位となり，以降2006年６位，2008年４位，2012年８位となっている．

〈理由〉年齢に不適当，暴力，オカルト / 悪魔崇拝，宗教的観点　等

（６）*It's Perfectly Normal*

著者はロビー・H・ハリス（Robie H. Harris）で1994年に最初に刊行された．1990年から2000年までの10年間で15位，2003年７位，2005年１位，2007年９位，2014年５位となっており，2005年には同著者による *It's So Amazing! A Book about Eggs, Sperm, Birth, Babies, and Families* が10位に入っている．

〈理由〉ヌード，性教育，性的に露骨，年齢に不適当，妊娠中絶，同性愛　等

（９）*All the Captain Underpants books*

著者はデイブ・ピルキー（Dav Pilkey）でシリーズが1997年から刊行される．2002年６位，2004年４位，2005年８位，2012年１位，2013年１位，2018年３位というように，子どもからの人気とともに異議申し立て割合が高い作品である．

〈理由〉不快な言葉，年齢に不適当，暴力，反家族主義，性的に露骨　等

（11）*All the Goosebumps books*

著者はＲ・Ｌ・スタイン（R. L. Stine）でシリーズが1992年から刊行される．1990年から2000年までの10年間で16位となっている．

〈理由〉オカルト / 悪魔崇拝，若者にとって恐ろしい　等

３－３　異議申し立て理由の傾向

OIF Censorship Database 1990－2000による異議申し立て理由は図３の通りである．「３－２　OIF のリストと作中登場図書の比較」に見られた通り，性的な内容，不快な言葉，年齢に不適当，オカルト / 悪魔崇拝の助長，暴力といった事柄が図書に含まれるといった理由が多くの割合を占めている．なお，これらの理由も，異議申し立て当事者と対象施設同様に2001年以降も傾向は大きく変わっていない[8]．

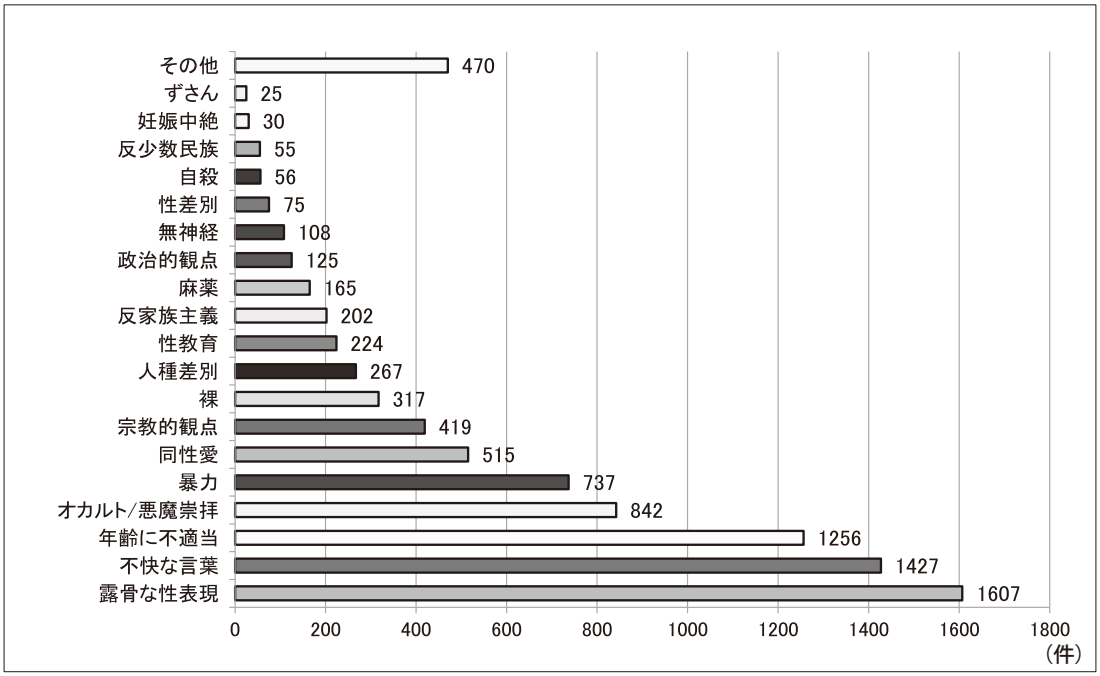

図３　異議申し立て理由[9]

4．異議申し立てと闘う子どもたち

エイミーは図書室で利用できない図書をきっかけに，自分たちが読みたい図書と読む権利を勝ち取るため仲間たちと考え，行動に移した．子どもがこのように行動することは，フィクションのなかだけの話では決してない．

全米各地で起こった禁書騒動のなかに注目すべき事例がある．1999年11月に教育長が出した通達により公立学校で「ハリー・ポッター」シリーズの扱いに制限が課されることに始まった，ミシガン州ジーランド学校区の事例である．この通達により児童生徒が「ハリー・ポッター」を自由に利用することができなくなったことをきっかけに，反検閲を訴える「キッドスピーク！」（KidSPEAK!）というホームページが立ち上がった．子どもたちは自分でこのホームページの URL を見つけ出し，口コミで広めていったと言われる．このホームページは，アメリカにおいて読書の権利を保障する合衆国憲法修正第一条についての知識を与え，検閲の意味と表現の自由について問い，そのために闘おうとする子どもたちを支援することを目的としていた．それまでの一般的な反検閲の動きは，それと対峙する異議申し立てと同様に「子どもの利益」という名目で大人によって行われるものが多く，子どもによる動きはほとんど見られることがなかった．しかしこの事例では，子どもによる反検閲の活動が繰り広げられ，「ハリー・ポッター」の利用制限の撤回に至った．子どもたちが検閲に対して全くの無関心で，検閲を一方的に受け入れる弱者のままでいるわけではないことを示している．*Ban this Book* のエイミーたちも手段にいくつかの問題はあったものの，修正第一条について学びながら大人に立ち向っていった．

5．おわりに

本作には印象深いセリフが度々登場する．その一つに，司書のジョーンズが主張し，エイミーに引き継がれた「子どもにむかって，この本は読んでもいいけどこの本はいけないという権利があるのは，その子の保護者だけです」[10] がある．異議申し立てを繰り返したスペンサー自身も子どものたちのために資金を集めて立派な校庭を作るため奔走する等，決して悪い人物ではない．子どものためになると真剣に考えて異議申し立てをしていることは，エイミーも物語の終盤では理解できていた．しかしながら，自分の価値観で他者にも影響を及ぼす行為は，より悪影響を招く可能性がある．子どもの本の選択について考える時，「教育者であるわたしたちのつとめは，子どもたちをできるかぎり多様な本，多様な視点にふれさせることです．（中略）そしてときには，わたしたちが賛成できないことがらが書かれた本を読むことを認めて，自分で考えさせることも必要です」[11] というジョーンズの言葉とともに心に留めておきたい．

引用文献

1）American Library Association. <https://www.ala.org/advocacy/bbooks/bannedbooksweek/ideasandresources/freedownloads>（accessed 2022–11–23）
2）Foerstel, Herbert N. Banned in the U.S.A.: a reference guide to book censorship in schools and public libraries. Revised and Expanded Edition. Greenwood Press, 2002, p.275
3）Ibid.
4）Gratz, Alan. Ban This Book. Kindle ed. Tom Doherty Associates, 2017, p.245
5）Gratz, Alan. Ibid., p.48
6）Foerstel, Herbert N. op.cit.,p.272–279
7）American Library Association. <https://www.ala.org/advocacy/bbooks/frequentlychallengedbooks/top10>（accessed 2022–11–23）
8）American Library Association. <https://www.ala.org/advocacy/bbooks/bannedbooksweek/ideasandresources/freedownloads>（accessed 2022–11–23）
9）Foerstel, Herbert N. op.cit.,p.276
10）グラッツ，アラン．貸出禁止の本をすくえ！．ないとうふみこ訳．ほるぷ出版，2019, p317
11）同上，p.39–40

（2022年11月24日　受領／2022年12月８日　受理）

表　*Ban this Book* に登場する図書のリスト

	title	邦題	出版社
1	From the Mixed-up Files of Mrs. Basil E. Frankweiler	クローディアの秘密	岩波書店
2	Island of the Blue Dolphins	青いイルカの島	理論社
3	Hatchet	ひとりぼっちの不時着	くもん出版
4	My Side of the Mountain	ぼくだけの山の家	偕成社
5	Hattie Big Sky	ハティのはてしない空	鈴木出版
6	The Sign of the Beaver	ビーバー族のしるし	あすなろ書房
7	Julie of the Wolves	狼とくらした少女ジュリー	徳間書店
8	Indian Captive	※未訳	
9	Roller Girl	※未訳	
10	Wait Till Helen Comes	※未訳	
11	Are You There God? It’ s Me, Margaret	神さま、わたしマーガレットです	偕成社
12	Scary Stories to Tell in the Dark	※未訳	
13	Matilda	マチルダは小さな大天才	評論社
14	Harriet the Spy	スパイになりたいハリエットのいじめ解決法	講談社
15	It’s Perfectly Normal	※未訳	
16	Junie B.Jones books	※未訳	
17	All the Captain Underpants books	「スーパーヒーロー・パンツマン」シリーズ	徳間書店
18	The Egypt Game	※未訳	
19	All the Goosebumps books	「グースバンプス　世界がふるえた怖い話」シリーズ	岩崎書店
20	Tales of a Fourth Grade Nothing	ピーターとファッジのどたばた日記	バベルプレス
21	Superfudge	赤ちゃん、いりませんか？	偕成社
22	My Brother Sam Is Dead	サム兄さんは死んだ	ぬぶん児童図書出版
23	Bridge to Terabithia	テラビシアにかける橋	偕成社
24	Wayside School books	「ウェイサイド・スクール」シリーズ	偕成社
25	How to Eat Fried Worms	ミミズ・フライの食べ方	早川書房
26	The Diary of a Young Girl	アンネの日記　増補新訂版	文藝春秋
27	The Witch of Blackbird Pond	からすが池の魔女	岩波書店
28	Liar & Spy	ウソつきとスパイ	小峰書店
29	The Lightning Thief : Percy Jackson and the Olympians	パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々　盗まれた雷撃（「パーシー・ジャクソン」シリーズ）	ほるぷ出版
30	The Paperboy	※未訳	
31	The London Eye Mystery	※未訳	
32	Luv Ya Bunches	※未訳	
33	The Midwife’s Apprentice	アリスの見習い物語	あすなろ書房
34	The Great Brain	※未訳	
35	More Adventure of the Great Brain	※未訳	
36	And Tango Makes Three	タンタンタンゴはパパふたり	ポット出版
37	The Giver	ギヴァー　記憶を注ぐ者	新評論
38	In the Night Kitchen	まよなかのだいどころ	冨山房
39	Coraline	コララインとボタンの魔女	角川書店
40	The Golden Compass	黄金の羅針盤（「ライラの冒険」シリーズ）	新潮社
41	The Face on the Milk Carton	※未訳	
42	A Day No Pigs Would Die	豚の死なない日	白水社
43	Big Wig: A Little History of Hair	なぜカツラは大きくなったのか？髪型の歴史えほん	あすなろ書房
44	Murder on the Orient Express	オリエント急行の殺人	早川書房
45	The Mysterious Benedict Society and the Prisoner’s Dilemma	※未訳	
46	Amulet	※未訳	
47	Sounder	父さんの犬サウンダー	岩波書店
48	The Indian in the Cupboard	リトルベアー　小さなインディアンの秘密	小峰書店
49	Chronicles of Prydain	「プリデイン物語」シリーズ	評論社
50	My Teacher Is an Alien	※未訳	
51	The Kid Who Only Hit Homers	※未訳	
52	The Stupids	※未訳	
53	Walter the Farting Dog	おなら犬ウォルター	サンマーク出版
54	Where’s Waldo	ウォーリーをさがせ！	フレーベル館
55	Harry Potter	「ハリー・ポッター」シリーズ	静山社
56	The Lorax	ロラックスおじさんの秘密の種	小学館
57	Goodnight Moon	おやすみなさい　おつきさま	評論社
58	Frog and Toad Are Friends	ふたりは　ともだち	文化出版局
59	Chicka Chicka Boom Boom!	※未訳	
60	Little House on the Prairie	「大草原の小さな家」シリーズ	講談社
61	Bunnicula books	「なぞのうさぎバニキュラ」シリーズ	福武書店
62	The Star Wars books	「スター・ウォーズ」シリーズ	講談社
63	Magic Tree House	「マジック・ツリーハウス」シリーズ	メディアファクトリー
64	The Hunger Games	ハンガー・ゲーム	メディアファクトリー

※リストの図書は、Kindle版にもとづき、作中でエピソード上の表現として用いられているものは除いた

※邦訳の情報は『貸出禁止の本をすくえ！』ほるぷ出版（p.332-335）のリストを参考とした